

[06] 形態よりみたカキ(*Diospyros kaki* L.f.) の品 種分化に関する研究

白石, 眞一

土師, 岳

若菜, 章

<https://doi.org/10.15017/13932>

出版情報 : 九州大学農学部農場報告. 6, pp.1-58, 1991-09-25. 九州大学農学部附属農場
バージョン :
権利関係 :

摘 要

九大果樹園の保存品種を中心に、1988年から1990年の3年間にわたりカキ品種89種で行った形態調査をもとにまず各形態形質の環境変異の大きさを推測し、その結果環境変異が小さいと考えられた形質を用いて甘渋4品種群の特徴ならびに品種の地理的分布の特徴を検討した。

1：明らかな品種間差異が認められた形質について環境変異の大きさを推測した結果、果実では果形指数、へたくぼ比、果頂裂果の有無、へたすきの有無、条紋の有無、へた部のしわの発生程度の6形質、種子では種子形指数の1形質、雌ずいでは雌ずいの長短(指数)、花柱の長短(指数)、子房の長短(指数)、花柱の分岐程度(指数)、雌ずいの毛の発生程度の5形質、成葉では葉形指数I、葉形指数II、葉脚の角度の3形質が環境変異の小さい形質と考えられた。

2：上記の15形質について甘渋4品種群別に比較検討した結果、完全甘ガキは他の品種群に比べ一般に品種間変異が最も小さく、さらに果形指数、種子形指数、葉形指数I、葉形指数IIと葉脚の角度では頻度分布に明らかな偏りが認められた。また果頂裂果発生品種、へたすき発生品種、へた部のしわ発達品種(密度1.0以上)が特異的に多く認められた点や条紋発生品種が認められない点でも特異性が認められた。以上の結果から完全甘ガキは遺伝的な変異が小さくかつ偏った品種群であると考えられた。

3：甘渋4品種群の比較検討と同様の方法により品種の地理的分布の特徴を見た結果、一般に特定形質で特異な値や特異な状態を示した品種は近畿地方および東海地方を中心とした近畿地方以東に偏って分布する傾向が認められ、それらの形質はこの地域固有の変異と見なせることから近畿地方と東海地方を中心とした近畿地方以東の地域は日本において品種分化が最も進んだ地域であり、遺伝的変異が小さくかつ偏った完全甘ガキはこの地域における変異の1つの型と考えられた。

4：さらに葉形については明らかな地理的勾配が認められ、近畿地方、東海地方、関東・甲信地方の品種と韓国品種とは対照的な頻度分布を示し中国・四国地方、東北・北陸地方、九州地方と、近畿地方、東海地方、関東・甲信地方から離れるにつれその頻度分布が韓国品種のそれに類似していく傾向が認められたことを考慮に入れると、近畿地方、東海地方、関東・甲信地方に分布する品種は調査品種全体からながめると特異な集団であり韓国品種との関係もそれ程深くないのに対して、これらの地域の周辺部である中国・四国地方、東北・北陸地方、九州地方には韓国品種に類似した品種が点在していると考えられた。

以上の結果から日本のカキは地理的に偏って品種分化をしていると考えられた。